



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏  
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

## 災害時の口腔の健康から思うこと

副院長・小児歯科科長 井上 美津子

今年は3月の東日本大震災に続き、8～9月になっても台風による水害など様々な災害が起きました。1時間に何百mmという雨量が観測され、考えただけでも何時間か降れば床上まで浸水する状態になるのが分かります。東は地震に津波、西は大雨による被害と、自然の脅威をまさに実感した1年でした(もっともまだ今年が終わっていないので、これからも何があるかわかりませんが)。

歯科病院から被災地の救援活動に加わった先生方の活動については、すでに4月号の歯科病院だよりで報告されていますが、ここでは災害時の口腔の健康について考えてみたいと思います。被災した人達の口腔の健康というと、まず念頭に上がるのが「歯磨き」であり、歯ブラシを届けようということになります。3月には歯科医師会などを中心に多くの団体で、歯ブラシを集めて被災地に届けようという活動がみられ、私ども日本小児歯科学会でも子ども用歯ブラシを大量に集めて届けたりしました。また、避難所に口腔ケア支援(歯磨き指導や義歯の清掃指導)に出かけた歯科医師仲間もいれば、歯磨きばかりでなく「お口の健康体操」を広めに行った友人もいます。食料の確保もままならない時に歯磨きや口の体操なんて、と思われる方もいるかもしれませんが、実は口の健康は全身の健康ともメンタル面とも深くかかわっているのです。口の中が汚れて細菌が多いと、むし歯や歯周病が発生・進行しやすいのは周知のことだと思いますが、また誤嚥性肺炎のリスクが高まることや歯周病が糖尿病や高血圧などの全身疾患に関連していることなども知られてきています。被災地で非常食的な食事が多くなると、よく噛んで唾液と混ぜ合わせないと味わいが出来ません。保存性のよい乾燥した食品は、よく噛むことで食

品中の味物質が唾液の中に溶けだし、それが舌表面にある味覚センサーである味蕾に達してはじめて、十分に味わうことができるのです。噛み砕いただけで水分で流し込んで、味わいもなく食の満足も得られにくいものですし、唾液の様々な



効能(口腔内の自浄作用や酸などの中和・緩衝作用、消化作用、殺菌作用など)も活用できません。また、被災時などは気分も沈みがちなため、おしゃべりを楽しんだり、声を出して笑ったりすることも少なくなりがちです。口を動かし、声を出し、唾液の分泌を促すだけでも、口と全身の健康にプラスになり、人と話したり声を出して笑うことは精神的ストレスの解消にもなります。

口を使った行為には心身の健康につながる様々な効果があることを、もっと歯科から発信していきたいと思います。

今、食育推進の流れの中で、歯科からは「噛ミング30」が提唱されています。これはただ一口30回噛もうという咀嚼目標ということではなく、よく噛んで味わって食べることが心身の健康につながるというメッセージでもあります。日本学校保健会が行った食と咀嚼に関する調査でも、「噛むことは身体によいと思うか」という質問に、小学生では約半数がそう思うと答えていましたが、中学生では38%に減少しており、また意識してよく噛むようにしているという生徒は、小学生で17%、中学生で7%とごく少数でした。

よく噛み味わう咀嚼習慣を小児期から育てていけるよう、小児歯科の臨床でも対応していきたいものです。

## 小児歯科 紹介

小児歯科は、歯科病院4階にあり、文字通り「子どものための診療」を行う科です。歯科保存科・歯科補綴科・口腔外科・矯正歯科などの診療内容によって分類される科と違って、小児歯科・高齢者歯科・障がい者歯科は患者さんの年齢や状況によって分類される科ですので、その年齢・状況に合わせた特別な配慮が必要になります。待合室で過ごす時間も子どもの不安が増大しないように、ビデオを見たりできるように(アンパンマンがやはり一番人気ですが・)してあります。診療室の床や壁紙も子どもの目にやさしい明るいものになっていますし、診療用の器材もできるだけ子どもの目に触れないようにしてあります。

ここ30～40年くらいで小児期のむし歯は急激に減少してきました。昭和40年代には90%近くを示していた3歳児のむし歯罹患率も、最近では20～30%となり、都内ではさらに低い地域もでてきたため、小児歯科を訪れる患者さんの様相も変わってきました。以前はむし歯の治療のために来院するお子さんが殆どでしたが、来院の理由も検診・予防や歯ならび、歯の生え方や形の問題、口の癖や食べ方の問題など多様化してきました。

新聞などでご存じの方々も多いかと思いますが、最近永久歯が少ないかあるいはなかなか生えてこない子どもが増えたのではないかとわれています。これは人類の進化なのか退化なのかは不明ですが、保護者の方々にはご不安のことと思います。当科では矯正歯科と協力してお子さんの歯並びについて治療を行わせていただいたり、歯科放射線科と協力して一般的なCTと比較して被曝線量の少ないCBCT(コーンビームCT)を用いて診断を行い、必要があれば外科的な手段を用いて歯の萌出誘導を行っています。

むし歯は少なくなってきましたが、歯の外傷は残念ながら少なくなつてはきていません。歯がぐらぐらになったり、歯がとれてしまったときは、ぶつけてから歯を元の位置に戻すまでの時間が重要になってきます。もし、歯をぶつけてしまった場合には、すぐにかかりつけの歯科医院か当科へご連絡ください。当科では乳歯であれば外傷時の処置後

も永久歯に交換するまでの間、各種検査を行いながら、経過をみさせていただいております。

午前中は低年齢のお子さんの治療で賑やかな小児歯科の外来も、年長児の定期診査が多くなる午後は比較のおだやかな雰囲気です。われわれはお子さんの歯・口に関わる様々な問題を保護者の方と共有し、相談しながら診療をすすめ、歯・口の健康維持を図りたいと考えています。

当科は日本小児歯科学会の専門医研修施設であり、指導医・専門医を中心とした診療体制を整備しています。通常の外来治療が困難なお子さんには、保護者と治療の方法や内容について相談し、時には歯科麻酔科の協力のもとで鎮静法や全身麻酔を用いた治療も行っています。

歯科の治療技術は年々進歩していますが、子どもにとっては「治療より予防」で、歯・口の健康を守っていくことの方が重要ともいえます。お子さんの成長に寄り添いながら、適切な治療や予防的対応ができればと考えています。また、お子さんの歯・口に関するどのような悩みでもお気軽にご相談いただければ幸いです。

最後になりますが、本年末に小児歯科外来の改装工事が予定されています。皆様方にはご迷惑をおかけしますが、ご理解をよろしく願いいたします。

(小児歯科 医局長 浅里 仁)



小児歯科医局員

矯正治療は、不自然な位置にある歯やあごの骨を整えて美しい歯並びや正しいかみ合わせや、さらにバランスのとれた口元を作り出すことです。きれいな歯並びは、むし歯や歯周病の予防につながり、将来にわたってお口の健康維持に貢献します。さらに、よいかみ合わせは消化を助け、からだ全体の健康にもよい結果をもたらします。しかし、一般的に矯正治療は、「装置が目立つ」、「痛みが出る」、「治療期間が長くなる」といわれ、そのために矯正治療を敬遠する方も少なくありません。

そこで、昭和大学歯科病院矯正歯科では、日本で最初にインビザライン(取り外し式の透明のマウスピース型の矯正装置)を導入し審美性に優れた矯正治療を行ってきました。そして最近では、矯正装置の審美性の向上、矯正治療に伴う痛みの軽減、矯正治療期間の短縮を目的とし、その全てを兼ね揃えたジルコニアを用いたブラケットを当教室で開発しました。(薬事認可済)

ジルコニアブラケットの特徴としては、

① 審美性に優れます。

装置が歯の色に近似しているため装置が目立ちません。



② 従来の装置と比べて、小さく、厚みも薄いため、違和感が軽減されます。

③ 弱い力で歯を動かすため、痛みの少ない治療が可能です。

従来の装置と比べて、細いワイヤーを用いて治療を行います。



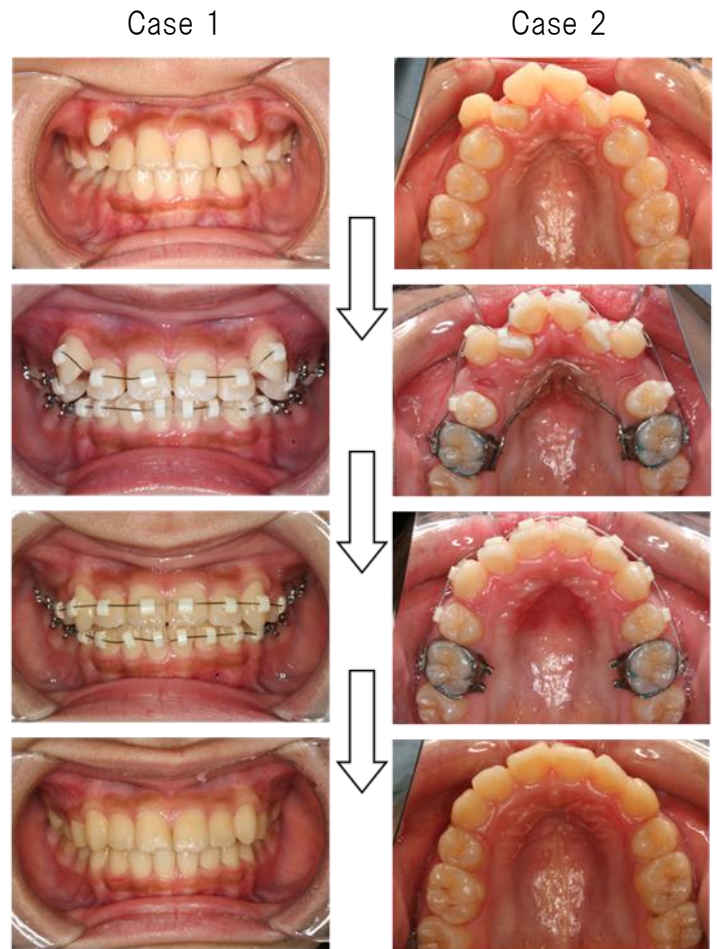
太いワイヤーによる矯正治療

細いワイヤーによる矯正治療

④ 表面形状が滑らかで細菌の付着や増殖が少なく、口腔内が衛生的に保たれます。

⑤ ジルコニア製ブラケットによる治療は、弱い力により歯を動かしますが、歯の動きは従来の装置より速いため、治療期間が短縮されます。

症例の紹介



治療期間11カ月

治療期間14カ月

矯正治療器具は、口腔内に入れるものなので、「より安全に、より審美的に、より快適に」を目指す必要があります。今回開発したジルコニアブラケットによる矯正治療は患者様にご満足いただいております。

ご不明な点は5階矯正歯科受付までお気軽にご相談ください。

## 5ヶ月目の被災地訪問(岩手県下閉伊郡山田町)

2011年3月11日14時46分ごろ、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震が発生しました。昭和大学は3月15日より4月16日まで約1カ月間で、延べ107名の医療従事者および学生を派遣しました。また学生は、その後方支援やボランティア活動を行いました。

はじめに、被災地を訪れたのは3月23日震災より2週間も経っていない時でした。その後、救援活動時後方支援にあった学生によるボランティア活動を引率するため、ゴールデンウィークと夏休みの3度訪問しました。

一度目の、ボランティア活動時は、山田町、宮古市には宿泊施設はなく、盛岡市に宿泊し早朝5時46分のバスで宮古市まで行きそこから、タクシーまたはバスで山田町に入り活動を行いました。作業は瓦礫撤去、救援物資の仕分け作業を行ってきました。

夏休みのボランティア活動時には宮古市の宿泊施設が再開し(ホテル近江屋)そこから山田町に向かいました。

今回の3度目の訪問は、歯学部学生2名、薬学部学生7名他に医師1名、歯科医師1名の計11名による、学生ボランティア活動として行ってきました。街の

様子は、大きな瓦礫も減ってきて、町のはずれの方の瓦礫も手をつけられてきていました。医療機関も仮設診療所を設置し診療活動を行っています。各避難所だった所も通常の施設に戻り、避難所生活ではなく仮設住宅等に移り生活をしていました。街中もスーパー、食堂や小さな居酒屋なども営業を開始し着実に小さいながらも町としての機能が回復しているよう印象を受けました。活動内容は野外での被災者宅の細かい瓦礫撤去でした(写真1)。今回は全日野外での活動で日差しを遮る場所ないため、連日の猛暑のため熱中症対策も必要でした。少し離れた場所の作業場の方のご厚意でパラソルを出して頂いたり、水道水の提供を受けました(写真2)。作業中色々な被災者の方から冷たい飲み物や果物の提供をうけ、心の温かさを感じました。(歯科補綴学教室 阿部 有吾)



写真1 撤去作業中



写真2 お世話になった  
地元の方と全員で

## 平成23年度 自衛消防訓練審査会 男女優勝！！

9月16日(金)午前9時から平成23年度自衛消防訓練審査会が大田区立田園調布せせらぎ公園内東側多目的広場にて行われました。

当院は1号消火栓の部に男子隊、女子隊が出場しました。男子隊は当院守衛室の(株)パトロールサービスの3名、女子隊は隊長に総合歯科 小林助教、1番員に事務部医事課 立岩さん、2番員に歯科衛生士室 後藤さんが出場しました。

結果は男子隊、女子隊共に優勝となりました。

男子隊は昨年度に続いて2年連続優勝、女子隊は平成18年度優勝以来5年ぶりの優勝となり、男女優勝は歯科病院始まって以来、初の快挙となりました。

隊員は暑い中練習に励み、時には業務終了後も自主練習に励んできました。その結果が優勝という形で現れたと思います。

隊員の皆様、本当にお疲れさまでした。

(管理課 倉地 夏樹)



## 編集後記

3月11日の東日本大震災に続き、9月21日には台風15号が東京直撃と今年も天災が続きます。皆様、まさかのために備えるとともに、健口を保ちバランスのとれた食生活を心がけながら食欲の秋を享受し、体力も十分蓄えましょう。

(K.T)

